

DIALOG

DIALOG(対話)を通して地域医療のあり方を考える

2016
Apr・May・Jun

発行日：2016年5月31日

発行：岡崎市民病院

地域医療連携室

今回のテーマ：“がん診療拠点病院，放射線治療，外来治療センター”

当院は，平成28年4月1日より
「愛知県がん診療拠点病院」に指定されました。

がん診療拠点病院とは

全国どこでも適切ながん医療が受けられる体制の整備に向けて，地域のがん診療の連携の拠点とがん医療水準の引き上げを行う病院として国が指定する「がん診療連携拠点病院」と同等の機能を有する病院として，平成22年5月1日に愛知県が定めたものです。

がん診療拠点病院の体制・役割としては

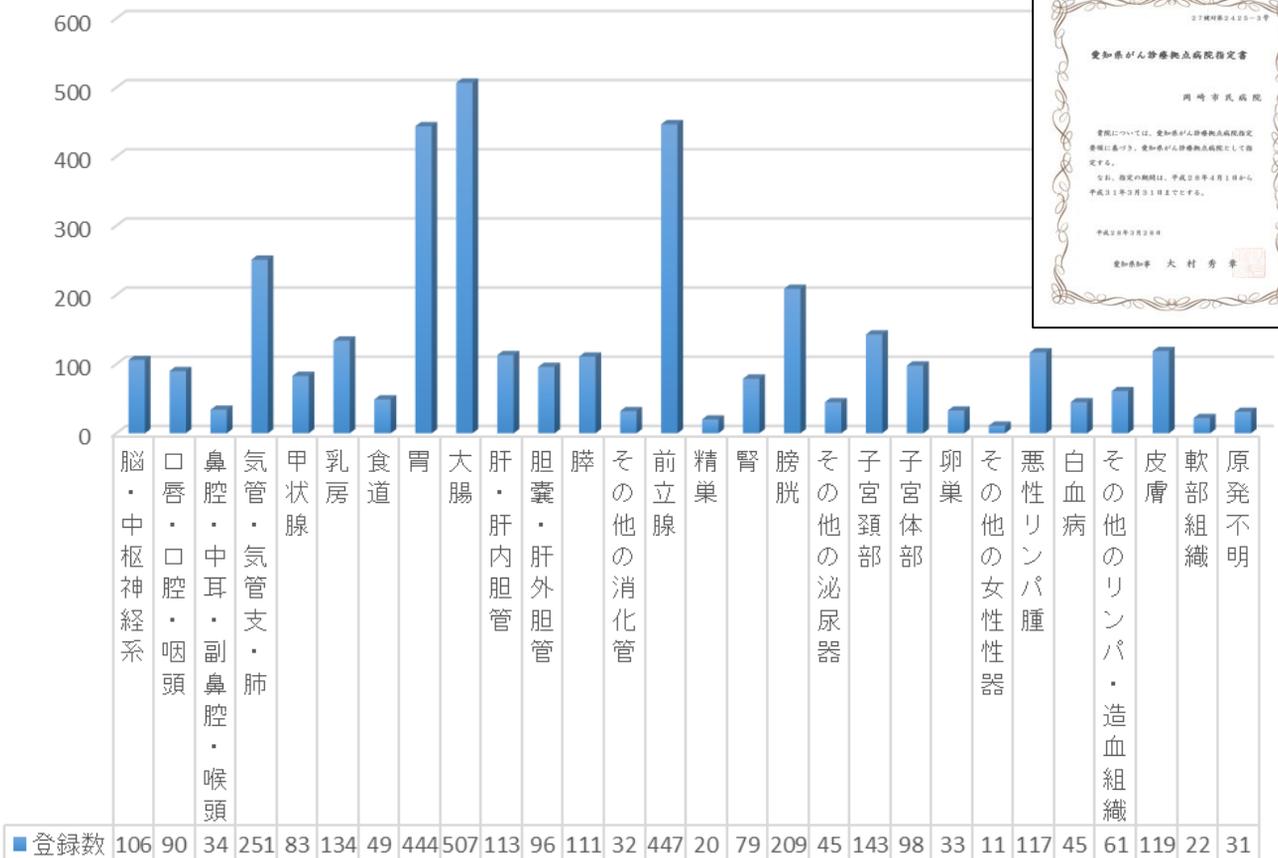
- ① 日本に多い5大がん（肺がん・胃がん・肝がん・大腸がん・乳がん）の診断および治療

- ② 5大がん以外のがんの診断および治療
 - ③ がん医療に関する専門的な知識および技能を有する職員の配置
 - ④ がん医療に関する医療施設の設備の充実
 - ⑤ 緩和ケアの提供
 - ⑥ セカンドオピニオンの提供および協力
 - ⑦ 他病院との連携や研修・診療支援
 - ⑧ がん登録・臨床研究等の実施
 - ⑨ がん相談支援センターの整備，患者さんの相談会の実施
 - ⑩ 地域住民へのがん情報の広報
 - ⑪ P D C Aサイクルの実施
- などがあげられます。

鈴木 祐一 副院長(外科)



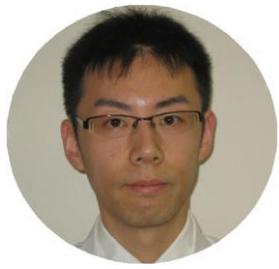
岡崎市民病院 がん登録数(2012-2014年 総数3534件)



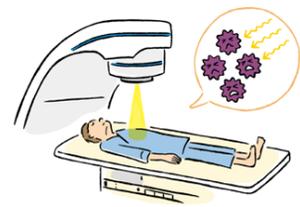
当院はさまざまな「がん患者さん」に対応しています。当院にて診断および治療に来院され、新たにがん登録されたがん患者さんは2012年から2014年の3年間で3500件以上、2014年の1年間だけでも約1200名近くにのぼっています（院内がん登録より）。

また、この3年間に放射線治療部門の設置、外来治療センターの開設、がん相談支援センターの開設、

緩和医療の充実・緩和ケア外来の開始、院内がん登録の実施、内視鏡センターの開設などがん医療の設備・体制の充実をはかってまいりました。今後も岡崎市民病院はがん診療拠点病院としての責務を果たすため、さらなるがん医療の充実、地域の医療水準および治療成績の向上を目指してまいります。



放射線治療



大塚 信哉 放射線科部長
(放射線治療担当)

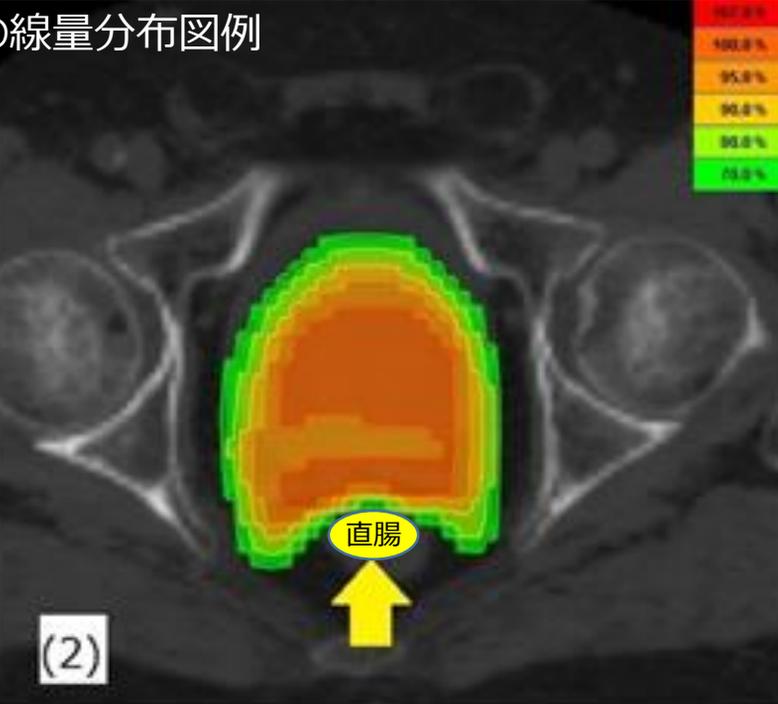
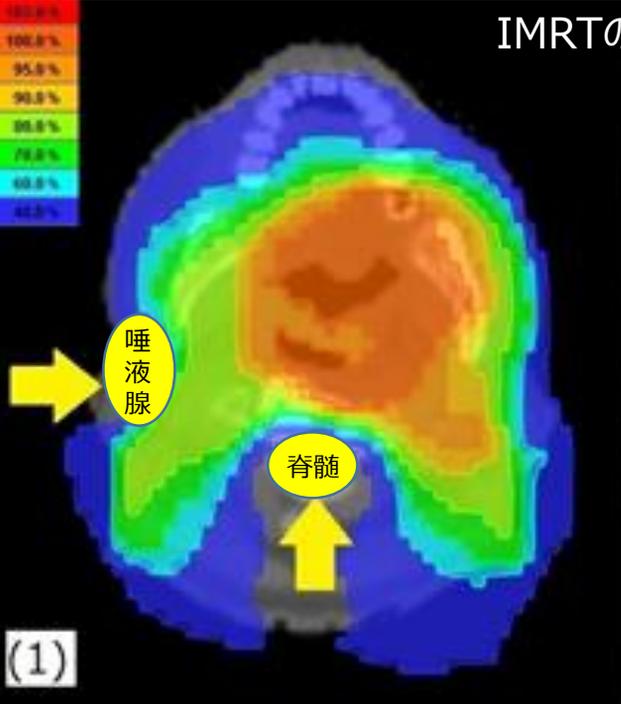
がん診療において、放射線治療は重要な治療法のひとつです。長らく近隣施設に依存する状態が続いておりましたが、関係の方々のご尽力により当院にも放射線治療部門を設置いただき、2014年2月より診療を開始いたしました。まだ2年程度ではありますが、着実に症例を重ねています。当部門の診療状況と特色についてご紹介いたします。

当部門には放射線治療医2名、診療放射線技師7名（放射線治療専門技師1名、放射線治療品質管理士1名、医学物理士2名含む）、看護師2名（放射線治療認定看護師1名含む）が勤務しています。また治療機3台が設置されており、定位放射線治療（体幹部、頭部）、強度変調放射線治療（以下IMRT）、密封小線源治療（子宮）など、ほとんどの放射線治療に対応可能です。

当院の特色は、TomoTherapy（トモセラピー）という、特にIMRTに優れた治療機を導入している点です。IMRTは、照射野の形状やビームの強弱を変化させ、これをパズルのように組み合わせることで、ターゲットに合った形に照射する治療法です。ターゲットに十分な線量を投与しつつ、周囲のリスク臓器への線量をコントロールすることが可能となります。前立腺癌治療においては、治療成績を向上させつつ有害事象を低減できることが示されていますし、頭頸部癌治療時は唾液腺障害を軽減することが可能です。表に示すように実際に治療対象となっているのは主に前立腺癌や頭頸部癌ですが、このほか、中枢神経系、脾、子宮、直腸なども有望な領域です。IMRTに対応できる施設は限られており、西三河地方の各施設からご紹介頂いています。

ご参考までに、前立腺癌IMRTの場合は約7週間の通院治療となり、3割負担の方で40万円弱をご負担いただけます。

IMRTの線量分布図例



(1) 頭頸部癌
唾液腺や脊髄の線量がコントロールされている。腫瘍部分と予防的なリンパ節領域。それぞれに異なる線量を処方できる(SIB法)。

(2) 前立腺癌
直腸線量が低減されている



	H25年度	H26年度	H27年度
総治療件数	35	239	195
IMRT	5	102	95
-前立腺	5	82	70
-頭頸部	0	14	11
-中枢神経系	0	2	2
-その他	0	4	6
定位放射線照射	1	5	5
密封小線源治療	0	3	4
全身照射	1	1	2



放射線治療スタッフ集合写真

通常の放射線治療においても、画像誘導放射線治療による精度の高い治療を行っています。Synergy（シナジー）というリニアックはいわゆる汎用機ですが、コーンビームCTと6軸補正可能な寝台を備えています。治療毎に取得した画像を用いて、0.1mm、0.1°単位での補正が行えます。

放射線治療のみのご紹介となることは少ないかもしれませんが、悪性腫瘍と診断あるいは疑われる患者様がお見えでしたら、是非当院にご紹介ください。関係各科と連携しながら、地域の皆様に質の高い診療を提供できるよう努めてまいります。



近藤 勝 腫瘍内科統括部長

外来治療センター(化学療法)



外来治療センターのご紹介 – 安心安全な外来化学療法を –

がん患者さんがモチベーションを保って治療を継続していくために、できる限り社会生活を維持したまま治療できる環境の必要性が高まっています。岡崎市民病院では、多くの患者さんに安心して外来ベースの治療を受けていただくことができるよう、2013年10月に外来治療センターを開設し、専属の医師、薬剤師、看護師が各診療科と連携をとりながら治療を担当しています。

バイタル測定、複数の看護師による薬剤の確認後に治療を開始します。薬剤の投与中も看護師が定期的にバイタルを測定し副作用の出現に細心の注意を払うとともに、副作用出現時には担当医が迅速な初期対応を行う体制をとっています。

当センターでは、患者さんに安心して治療を受けていただくために、安全性には細心の注意を払っています。まず主治医の診察を受けられた患者さんは、当センター担当医（腫瘍内科2名のどちらかが常駐しています）が再度診察を行い、治療の可否についてダブルチェックをしています。治療可となった患者さんについては、薬剤師が抗がん剤の投与量などに間違いがないことを確認したうえで、センター内に設置された安全キャビネットを使って無菌的に調剤します。



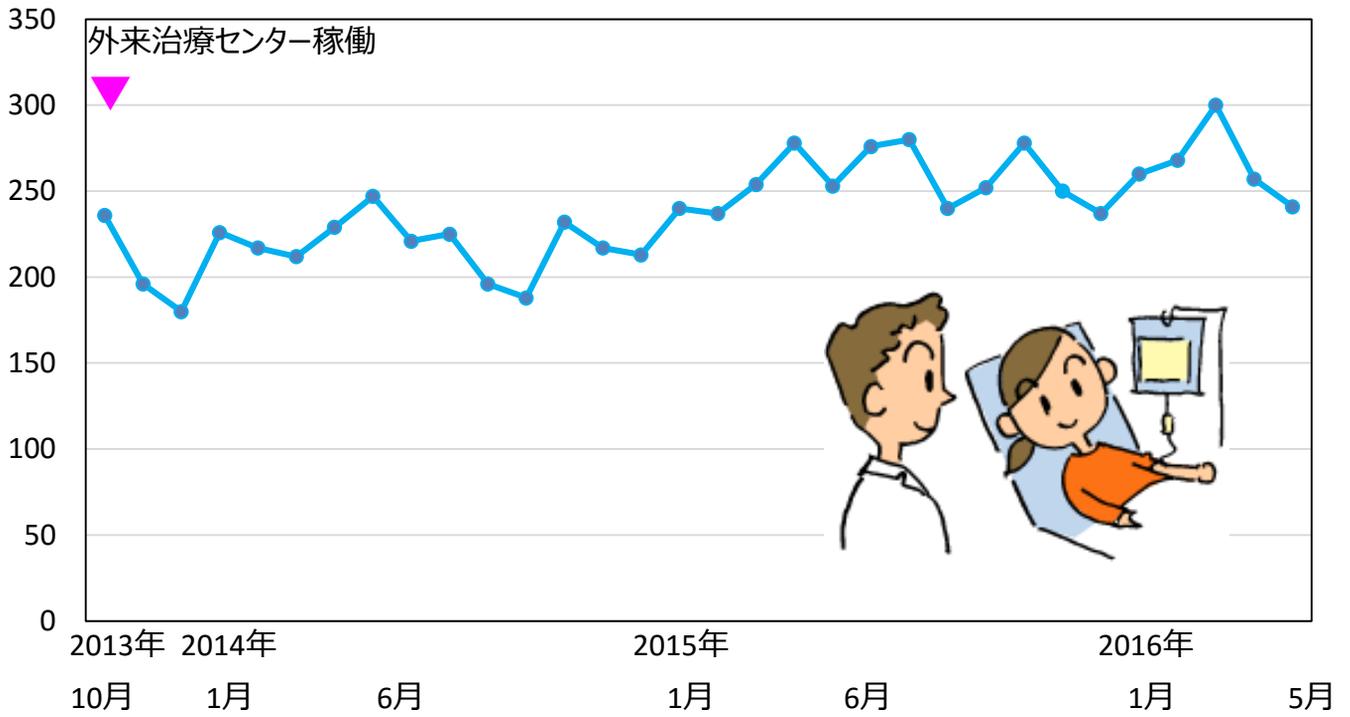
外来治療センターは、西棟1階南側の日当たりの良いフロアにあります(ベッド22台、リクライニングチェア3台の計25台)。

患者さんには担当の看護師1名が付き、治療前の



外来化学療法数

(件)



また、初めて当センターを利用される患者さんへの看護師によるオリエンテーション、使用する薬剤についての薬剤師による説明および指導、さらにはがん相談支援センターや緩和ケアチームとの緊密な連携などにより、患者さんの不安を極力取り除き、できるだけ安心した状態で治療に望むことができるよう努めています。今後は、さらに安心安全な外来化学療法を提供していくことにより、この地域のがん患者さんの治療により一層の貢献ができれば幸いと考えています。



外来治療センタースタッフ集合写真



この広報誌に関するご意見・ご要望はFAXにて地域医療連携室にお寄せください。



岡崎市民病院
OKAZAKI CITY HOSPITAL

岡崎市民病院 地域医療連携室

業務時間

平日 午前8時30分～午後5時

土曜日 午前9時～午後1時

(但し、祝日・12/29～1/3はお休みさせていただきます)

TEL (0564) 66-7262 (業務時間外は留守番電話になります)

FAX (0564) 25-6720

